

《沖縄協同病院の理念》

- 患者様に信頼され、質の高い安全・安心な医療をめざします。
- 人権を尊重し、納得のいく説明と同意、情報開示を提供します。
- 地域と連携し、総合的な医療・福祉・介護の提供に努めます。

はいさい

沖縄協同病院・病院広報委員会

豊見城市字真玉橋 593 番地の 1

TEL.(098)850-7951

http://oki-kyo.jp

E-mail:okikyo02@crocus.ocn.ne.jp

発行責任者 西銘圭蔵

新病院建設の進捗状況③⑧

(新病院建設工程について)



新病院の建築状況は建物がほぼ仕上がりました。外観は上層階の明るい白色と低層階の落ち着いた赤茶色が調和した造りとなっています。内部は仕上げのワックス作業が行われ、さらに重厚感があふれた状況です。

現在、工事は駐車場のアスファルト舗装や緑化等の作業が主に行われております。4月の消防や行政の建築確認の検査に向け、準備を進めています。

開院に向けた職員の準備も活発化し、職員間の会議や報告会が多く開催されています。

入院患者様の移送は、安全、安心、確実にする必要があります。先日、職員がモデルとなって模擬移送を行いました。第一回目ということで若干時間がかかりましたが、スムーズに行えるよう繰り返し行う予定です。患者様の移送との関係で外来開始日を6月2日とし、5月29日～6月1日を病院の休診日とする予定です。病院をご利用の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご協力お願いいたします。

新沖縄協同病院 開設準備会 新垣 司



2009 年度をむかえて

組合員、利用者、職員の皆様、2008年度のご支援、ご協力に対して感謝を申し上げます。

2008年度は、入院のDPC算定、病院広報誌『はいさい』の印刷化、組合員カード導入、内科教育病院の認定、午後外来の院外処方箋発行などがありました。また、全職員による未来志向運営をめざし、バランススコアカード(BSC)の学習を行ってきました。次年度は是非、目標管理(MBO)とあわせて、部署単位の目標、到達点、満足度がわかる運営をしたいものです。

また、病院全体で安心安全の学びをした一年でもありました。

一方、研修医8人が加わり、活気にあふれ、新病院に向けたワーキングチームが活発に動き、器に入れる新しい医療活動に胸を弾ませた一年でした。

経営も困難があったにもかかわらず、適正な黒字をだすことができました。

2009年度、いよいよ6月から新病院と現病院に分かれ、大いなる船出が始まります。

沖縄の光、風、息吹を感じさせる新病院と改築する現病院。力をあわせて医療活動の発展にとりくみたいと思います。

院長 西銘圭蔵

病院移転に伴う
休診日(予定)

5月29日(金)

6月1日(月)

上記の日時は病院の引越しのため、救急を含めてすべて休診となります。

2009年度は新入職員が
53名(研修医9名)入職しました。

新病院開院に向けて、みんなで力を合わせていきます。

Hibワクチン接種、始めました

小児科

④⑩



皆さんはHibワクチンをご存知ですか？
今日は皆さんにHibワクチンについてお知らせしたく、ペンをとりました。

「Hib」というのはインフルエンザ菌b型(ヘモフィルス・インフルエンザ菌b型)という細菌のことです。冬場に流行するインフルエンザはウイルスが原因のものでHibとは関係ありません。Hibはヒトの鼻の奥やのどにすんでいて、これが病原菌となり肺炎や喉頭蓋炎、敗血症など重い病気をおこします。中でも髄膜炎(脳や脊髄を覆う膜に細菌が入り込んで炎症をおこす細菌性髄膜炎)が最も多くみられます。日本では年間六〇〇人がかかり、その半数以上が〇一歳の乳児に集中し、全体の三二・二〇%に難聴やけいれんなどの後遺症が残る、五%が死亡するという、かかるとこわい病気です。しかも初期症状が発熱、嘔吐、不機嫌など、風邪などと似ていて区別がつかないため早期診断が難しいのです。また早期診断できても抗菌薬の効きにくい耐性菌が増えているため治療がとても難しくなっています。

しかし、このHib髄膜炎はワクチンで防ぐことができます。Hibは日常さらされているありふれた菌ですが、乳幼児ではまだ自然免疫が弱く自力で抗体をつくるのができません。でもワクチンには工夫がされているのでしっかりと抗体をつくることができ、高い予防効果が実証されています。乳幼児では、ワクチンがHib髄膜炎を防ぐ唯一の方法です。

このHibワクチン、もう十数年前にWHO(世界保健機構)が乳幼児への定期接種ワクチンに推奨し、現在までにアジアやアフリカの国々を含む百カ国以上で導入されています。定期接種している国々ではHib髄膜炎はすでに過去の病気となっています。

誰もが無料で受けられる定期接種としてではありませんが、昨年十二月からやっと日本でもHibワクチンが受けられるようになり、当院でも開始しました。かかるとこわいけれど、ワクチンで防ぐことのできる病気です。ワクチンを受けてHib髄膜炎から子どもたちを守りましょう！

ワクチンは生後二ヶ月から受けることができます。

(接種対象二ヶ月以上五歳未満)

詳細は小児科へお問い合わせください。

小児科 中村 真紀



院長の頭の中

その33

～税金の使い道を決めるのは国民～

- 沖縄県の救急医療体制は、おそらく全国一整備されている。各医療圏に県立病院があり、中核医療機関として医療サービスを提供している。さらに、民間病院がうまい具合に連携している。急患は遅滞無く救急車で運ばれ、命が救われている。
- ところが、県立病院を独立行政法人にして、5年後に黒字に転化できなければ民間に委譲するという計画が県によって進められている。
- 各自治体や民間団体から反対の声が上がっている。
- 古来から、戦争、貧困、病気は庶民を悩ませてきた三大災厄である。戦後の憲法でこの三つに対して、国が責任をもつと明記された。憲法9条と25条である。
- また、憲法12条は、この自由と権利を不断的努力でまもるのは国民の責務としている。国民が動けば、政治は変わるのである。

院長 西銘 圭蔵



虹の箱とは患者さまの声を医療活動に反映させていくための投書箱です。

ご意見・ご要望

- ① 検査更衣室に椅子を設置してもらえませんか。
- ② X線検査室前の更衣室内奥の壁あたりに手すりをお願いできませんか。着替える時(ズボンの着脱)に足に障害などがあるとぐらいたりして苦しい。検討をお願いします。

ご返事

- ① 検査の際の着替えで不便な思いをさせて申し訳ありません。検査更衣室(内視鏡室)は狭く、常設のイスは設置できませんので、折りたたみイスを設置しました。通常は立てかけてありますが、必要時にご利用ください。
- ② 放射線室側の更衣室はさらに狭く、イスが置ける状態ではありません。また、手すりを設置するとそれに頼って無理をしまい、転倒することがあるということで手すりもとりつけてはいません。放射線受付の際にお申出いただければ、イスの設置してある更衣室へご案内いたしますので、ご理解ください。

事務次長 比嘉 義信



かりゆし会

(糖尿病患者会)



なるほど!!

室内でできる運動療法

3月28日(土)のかりゆし会グラウンドゴルフ大会は集合時間になるとパラパラと雨が降り出し、急遽院内の一室に場所を移し内容を変更しました。

ストレッチから始め、室内でできるウォーキングを行うとすぐ汗ばんできて「これは効きそうだねー」との声があがりました。

次に香功(しゃんごん)という気功の一種でゆったりした運動を行いました。リラックスしながらもだんだん手足が温かく血行が良くなっているのがわかり、とても気持ちがよくなりました。

楽しみにしていたグラウンドゴルフができなかったのは残念でしたが、雨や寒い日でも家の中の小さなスペースでできる運動方法を知ることができ、有意義な一時でした。

内科外来 玉城 淳子

医師の動向

入職 木本敦史(脳神経外科)、金城繁正(脳神経外科)

退職 木田盛夫、村上大道、宮崎真奈美、與那嶺尚絵

初期研修修了後入職 金城仁、栗田晋、澤紙秀太、仲宗根卓、与儀梨香

初期研修修了後退職 椿本真穂、瑞慶覧美穂、林韻欣

専門研修へ 雨積涼子(小児科)、津田智弘(整形外科)

専門研修より帰任 城間政尚(内科)、比嘉千明(小児科)

ダイエットウォーク&気功

★ダイエットウォークを取り入れたストレッチとウォークです。

【4月の日程】

4月1日、8日、22日(水)

問い合わせ
総務課 金城(内線310)

場所: リハビリ室
時間: 18:30~20:00

※途中参加、退出できますので、お気軽にご参加ください。



地域の

風習・文化遺産⑬

ヌジファ

とてもびっくりした時や死ぬ思いをした時に沖縄では「タマシヌギタン」(魂が抜けた)、「マブイウトウチャン」(魂を落とす)という。沖縄には魂と肉体は別々という考えが根強い。マブイを落とすと精神に異常をきたしたり、体調不良になったりすると言われるので、ユタ(霊能者)を頼んで「マブイグミ」(魂込み)という儀式をして落とした魂を体に戻す。

生きている人の魂は「マブイグミ」で戻すが、亡くなった人の魂は「ヌジファ」で戻す。沖縄には事故で亡くなった人や病院で亡くなった人の魂はいつまでもその場所に留まっていると考えられ、その魂は「ヌジファ」という儀式でお墓に連れて行く。もちろん皆が「ヌジファ」をするわけではない。当院でもたまにウー・トートーしている姿を見かける。「ヌジファ」は沖縄では多分この病院でも行われており、「ヌジファ」専用の拝所を作っている病院もあると聞く。

最近「ヌジファ」している姿も見かけなくなったが、この風習は残された家族には心の拠り所にもなるので大切にしたいものである。

沖縄協同病院 金城 稲子